

### 3-1-9 MVV Energie

ビジネスモデル	蓄電池・マイクログリッド戦略、地域産エネルギー供給
小売り戦略	地域にエネルギーなどのインフラを提供するシュタットベルケの新しいビジネスモデルとして、地域で発電した再生可能エネルギーの地産地消サービスを提供。太陽光パネルや蓄電池と共に、制御用のゲートウェイを販売し、サービス契約を顧客と結ぶ
顧客・実績	—
採用システム	—
拠点	ドイツ本社：Besöksadress: Råbyvägen 37, Lund

#### ドイツ最大のシュタットベルケが再エネ拡大戦略を推進

MVV Energie は、ドイツで 1000 社以上ある地域エネルギー・インフラ企業のシュタットベルケ (Stadtwerke) の最大手企業であり、マンハイム市を中心に地域に電力やガス、熱を供給している。同社は、地域住民向けに今後、再生可能エネルギーの地産地消サービスを提供する戦略を打ち出している。

MVV Energie は 2014 年 11 月に、サービスプロバイダーや IT ベンダーと共同で分散型エネルギーシステムを提供する企業として BEEGY を設立した。パートナーは、サービスプロバイダーの独 BayWa、冷暖房システムメーカーのアイランド Glen Dimplex、ソフトウェアベンダーの GreenCom Networks の 3 社であり、4 社の共同出資で新会社を設立した。4 社の出資比率は、MVV Energie が筆頭株主で 34.8%、BayWa と Glen Dimplex が各々 25.1% で、GreenCom が 15% である。本社はマンハイムに置く。

「BEEGY」とは、「Better Energy」の略であり、各需要家にスマートメーターと共に、HEMS (Home Energy Management System：家庭用エネルギー管理システム) を設置して、太陽光などの分散型エネルギー、マイクロ CHP (Combined Heat and Power：コージェネレーションシステム)、家電製品、EV (電気自動車) などを最適管理することを目指す。さらに、「これまでは、大規模発電施設や送配電網などの既存システムと分散型エネルギーシステムの間には『ミッシングリンク』があったが、BEEGY では市場取引などを活用することによって、この 2 つを橋渡しする」と同社の担当者は語る (図 1)。

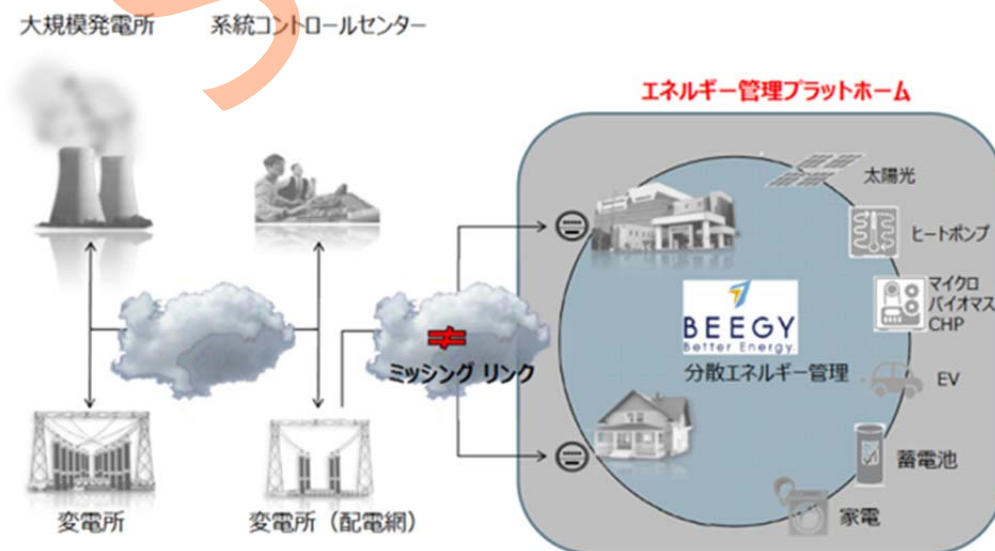


図 1 BEEGY プロジェクトで想定される分散型のエネルギーシステム

(出所：MVV Energie の資料を基に、日経 BP クリーンテック研究所が和訳・作成)